

C 家庭生活・子育て

① 結婚・育児についての考え方

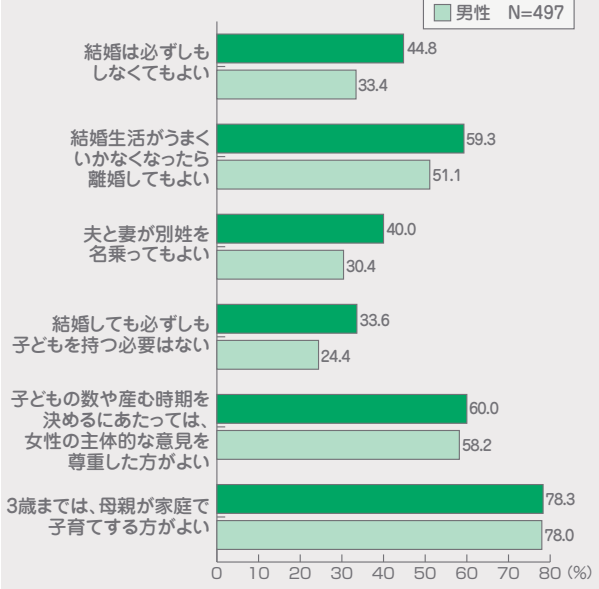
変わりつつある結婚観

結婚に対する考え方は変化しつつあります。特に、女性の方が、多様な生き方を認める傾向が表れています。

「結婚はしなくてもよい」は『そう思う』と『そう思わない』の割合が女性はほぼ同じで、男性は『そう思わない』が多くなっています。男女ともに「結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい」は『そう思う』のほうが多く、「夫と妻が別姓を名乗ってもよい」と「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」は『そう思わない』の方が多くなっています。「子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい」「3歳までは、母親が家庭で子育てする方がよい」は男女ともに『そう思う』が過半数を超えています。父親も働き方を見直し、仕事と家庭の両立をはかり、積極的に子育てを行うことが重要です。

■ あなたは、結婚・育児についての次のような意見をどう思いますか。

(そう思う+どちらかといえばそう思う)



② 子育て支援の住民活動について

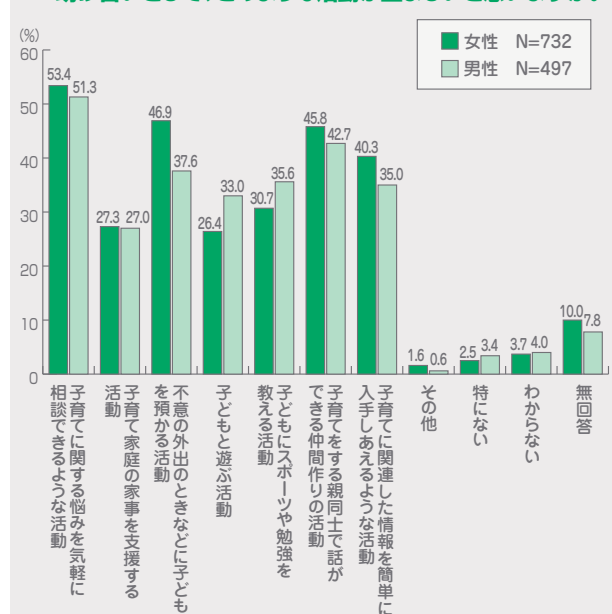
子育て中の親を社会全体で支援する活動が必要

子育ては社会全体で支援することが大切です。地域社会における子育て支援として必要だと考えられている割合が男女ともに高いのは「子育てに関する悩みを気軽に相談できるような活動」と「子育てをする親同士で話ができる仲間作りの活動」です。少子化や核家族化がすすみ、子育て中の親たちが気軽に話しかける機会が少なくなってきました。悩みを相談したり、語り合ったりすることは、親にとっても子どもにとってもよい環境を導くことができます。

女性が男性より必要だと考えている割合が最も高いのは「不意の外出のときなどに子どもを預かる活動」です。一方、男性が女性より必要だと考えている割合が高いのは「子どもにスポーツや勉強を教える活動」と「子どもと遊ぶ活動」です。

子どもを取り巻くさまざまな事件に対処するためにも、地域で支え合い、社会全体で子どもを守り、育てていくことが求められています。

■ あなたは、子育てにおいて地域社会における住民同士の助け合いとして、どのような活動が望ましいと思いますか。



③ 子育てについての考え方

女の子も男の子も、「経済的自立」と「家事」を

男女ともに、女の子は「家事ができるように」、男の子は「経済的に自立ができるように」育てることがよいという傾向があります。女の子は「経済的自立ができるように」、また、男の子は「家事ができるように」育てることがよいという考え方については、女性と男性で意識の差が表れています。

まだ多くの方が「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という子育て観を持っています。個性を尊重し、「自分らしく」生きるという認識を深めていくことも大切です。

